

日本基督教団 八ヶ岳教会 主日礼拝 NO.1178 2021年6月27日

牧師 山本護 奏楽 山本恵美 第一部礼拝 司式 青柳均 9:30~10:30
 ※讃美は二番まで歌います 第二部礼拝 司式 清水由可 11:00~12:00

前	奏	黙想	祈	禱		
頌	栄	539 あめつちこぞりて	讃	美	歌	87B めぐみのひかりは
祈	禱		献	金		
聖	書	詩編 23:1~4	讃	詠	547	いまささぐるそなえものを
		ヨハネによる福音書 10:11~14	黙	禱		
讃	美	歌 211 ひつじかいの ひつじかいよ	主	の	祈	り 564 聖なるかな
説	教	『牧会者バルナバ』	頌	栄	541	父、み子、みたまの
		長崎 哲夫 牧師	祝	禱	後	奏

前回、ヨハネ・マルコを扱う中で彼の従兄弟バルナバに触れた。バルナバは主イエスの12使徒でも、あの昇天事件の現場ベタニアからエルサレムのマルコの母マリアの二階屋に戻った弟子たちやイエスの母マリアとその子らヤコブ・ヨセ・ユダ・シモン(マコ 6:3)など約120人が、心を合わせて祈った人々の中にもその名はなく、漸くペンテコステを経た彼らが聖霊熱く燃えた群れとなり、誰一人として持ち物を自分の物とはせず、それらを売った代金を使徒たちの足元に置き、主の復活の証し人となったところに登場する。

バルナバはキプロス島生まれのディアスポラのユダヤ人レビ族のヨセフで、使徒たちは「慰めの子」(使徒 4:36)と呼んだ。後刻この集団は、言葉の異なるユダヤ人同志、日々の分配のことで分裂の恐れが生じたところを見かねた使徒群が執事選挙を行い、彼らの働きを明らかにした(6:3)。彼らの代表執事ステファノは、主の十字架以降最初の壮絶な殉教者となる(7:60)。

この事件がきっかけで、ステファノ派ヘレニスト信徒はユダヤ人会堂から追撃され、逃走の先々で福音を伝え、シリアのダマスカスやアンテオケで教会を生む。首謀者サウロ後のパウロは、彼らを追い男女の別なく大祭司の最高法院に連行した(9:1)。が、人の行く道定かならず彼はダマスカス手前の荒野で、突如キリストの光を受けた(9:3)。バルナバの再度の出所は正に其処にあり、ダマスカスでアナニアが授洗したサウロがエルサレムに帰還した時、当然ながらユダヤ会堂はその命狙い、主の弟子たちすら空恐ろしいサウロを避ける中、バルナバは毅然として彼を温かく受け止め、弟子らに仲介し、自由に往来させ、主の名を恐れず語る者とした。

兄弟たちはサウロをカイザリアまで護衛し、彼の故郷タルソへ船出させた(9:30)。逃亡の彼らがアンテオケで、伝道の成果を上げたことがエルサレムに伝わった時、弟子たちはバルナバを其処へ派遣し、彼は教会が神の恵みを充満する姿を見て、一同を尚励まし、多くの者を主に帰依させた(11:21)。こうしてアンテオケ教会はタルソに蟄居するサウロを、バルナバを派遣して連れ帰らせ、二人は一年其処に滞在した。彼らが初めて「キリスト者」と呼ばれたのはこの町でのこと(11:26)。

福音の進展は、何時の時代も迫害の最中生み出される所産だ。この中ローマの皇帝クラウディウス政権下(AD41-48)、エルサレムに大飢饉が起こり、アンテオケ教会は、今日の教会の習い通りバルナバとサウロを救援の金品を集めて派遣した(11:30)。この隙間に、主の弟子ヤコブがヘロデ王に斬首され(12:2)、ペトロの弟子としての役目は終了する(12:19)。

派遣されて用足しをした二人は、帰途マルコを連れてアンテオケに帰った(12:25)。此処にもバルナバの意図が働いたと見えるが、次に展開する彼らの第一・第二伝道旅行は、通訳マルコに賭かっていたからである。だが、第一回の途上マルコはペルゲから母のもとに逃げ帰り(13:13)、それが元で第二回目はバルナバとパウロは大激論の末分裂し、バルナバはマルコを連れて故郷キプロスに伝道した(15:39)。パウロはこの牧会者をペトロ同様非割礼の者たちとの食事を曖昧にしたことで激しく非難した(ガラ 2:11~13)。

(長崎哲夫牧師の説教要約)

本日の礼拝は長崎哲夫牧師に説教をお願いしました。次に長崎牧師が説教して下さるのは 7/25 です。7/4 の礼拝後は役員会。7/11 礼拝後に臨時総会を開きます。会員の皆様は御出席下さい。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HP は「日本基督教団八ヶ岳伝道所」で検索して下さい。